

試験時間 60分

### 【注意事項】

1. 試験監督(試験開始)の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題冊子は1ページから3ページまであります。
4. 試験監督の指示により、問題冊子と解答用紙に受験番号および氏名を記入して下さい。
5. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて試験監督に知らせ下さい。
6. 試験終了後、問題冊子と解答用紙はともに机の上に置いておくこと。持ち帰ってはいけません。

以下の文章を読み、問1と問2に答えよ。

日本は2019年6月30日、クジラの資源管理を話し合う国際捕鯨委員会(IWC)を脱退した。戦後、日本は主要な国際機関を脱退した例はなく、極めて異例の対応だ。7月1日には領海と排他的経済水域(EEZ)を対象海域として31年ぶりに商業捕鯨を再開する。関係者には悲願の再開となるが、鯨肉消費は縮小しており、事業の先行きは不透明な情勢だ。オーストラリアや欧米などの反捕鯨国を中心に国際社会から批判が強まる恐れもある。

日本は反捕鯨国が過半を占めるIWCで協議を続けても、商業捕鯨再開が認められるのは困難と判断。2018年12月に脱退を表明してIWC側に通告していた。条約の規定で6月30日に脱退が成立した。

日本が1951年に加盟したIWCは、1982年に商業捕鯨の一時停止を決定した。日本は長年、再開の交渉を続けたが実現しなかった。昨年の総会でも再開を目指す日本提案は否決され「異なる立場の共存は不可能」と結論付けた。

捕鯨に関係の深い地域から選出された国会議員らが伝統産業の衰退を止めるため商業捕鯨の再開が必要と訴えていたことも判断の背景にある。

7月1日午前、山口県下関市の港から沖合操業を担う共同船舶(東京)が運航する母船「日新丸」など3隻の船団が出航。北海道釧路市からも沿岸操業を担う6業者の小型捕鯨船5隻が出航し、商業捕鯨が再開する。

商業捕鯨については、資源を枯渇させないためIWCで採択された方式で捕獲枠を算出する。沖合操業はニタリクジラ、ミンククジラ、イワシクジラの3種が対象。沿岸操業でもミンククジラが対象となる。

IWC管理対象外のツチクジラなどの商業捕鯨はこれまでも実施している。日本は1988年に商業捕鯨から撤退した。一方で商業捕鯨再開に必要なデータを集めるため、日本沿岸を含む北西太平洋と南極海でミンククジラなどの調査捕鯨を続けてきた。

[出典：IWC 日本脱退 31年ぶり、商業捕鯨あす再開 毎日新聞 2019年6月30日 共同通信配信]

- 問1. 日本周辺水域の鯨類資源量と主要魚種漁獲量との間にはどのような関係が成り立っているか、図1～3をもとに200字以内で推定せよ。
- 問2. 以下に示すように、捕鯨に反対する意見は7つに分けることができる(森下丈二、捕鯨をめぐる対立の構造 鯨研通信、2018年)。これらの反対意見を参考に商業捕鯨再開について、自分の意見を600字以内で述べよ。意見は賛成でも反対でも良い。
- ① クジラは絶滅に瀕している(科学)
  - ② クジラは特別な動物である(感情・価値観)
  - ③ 商業捕鯨は禁止されている(法律)
  - ④ 捕鯨は倫理・道徳に反する(倫理)
  - ⑤ 世界の世論は反捕鯨である(政治)
  - ⑥ 捕鯨は必要ない(経済)
  - ⑦ 捕鯨は日本の文化ではない(文化)

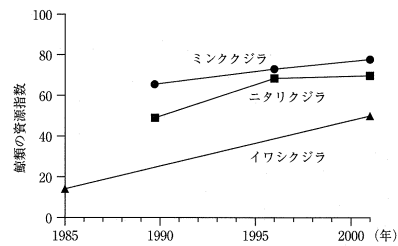


図1 日本周辺水域の鯨類資源量

鯨類の資源指数は、初期資源を100とした場合の資源指数である。シンボルがないところは、調査が行われなかったことを示す。

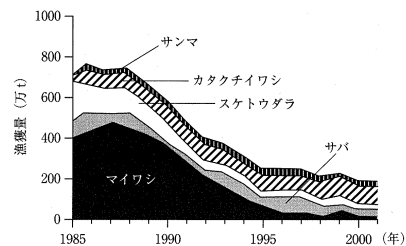


図2 日本周辺水域の主要魚種漁獲量

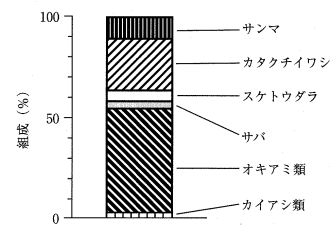


図3 ミンククジラの胃の中から見つかった生物の組成

図1、2 パンフレット「クジラの調査はなぜやるの？」(日本鯨類研究所)より、一部改変。  
図3 第2期北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNI) (日本鯨類研究所)より、一部改変。